

市民が守った橋

ドイツ・ドレスデン市にはエルベ川に架かる「青い奇跡」と呼ばれるロシュビッツ橋がありまして。1893年に架けられたこの橋は、当初は緑色に塗られていたものが次第に青色に変わったことから、このように呼ばれるようになったといわれます。

橋梁技術者でなくとも塗料が変色するのは紫外線の影響で特に珍しくもないと思われる方も多いでしょう。それよりも、この橋がエルベ川にかかるドイツ軍による爆破を免れた唯一の橋であることのほつがある意味奇跡

かもしれません。なぜ爆破されなかったのか理由は明確ではありませんが、爆破計画を聞きつけた市民が爆薬を取り外して阻止したという説があります。それとも、爆破命令の前に、ドイツの敗戦が決まったからかもしませんが。

余談ですが、ドレスデンのロシュビッツ橋を含むエルベ川の景観は2004年に世界遺産となりました。しかし交通渋滞解消のためこの橋の下流に新橋が建設されると、景観を損ねたという理由で2013年には世界遺産登録を抹消されてしまいました。



「青い奇跡」ロシュビッツ橋



爆破された漢江人道橋

朝鮮軍がソウル市に迫ってきた際に悲劇は起こりました。侵攻を恐れた韓国軍は、市内に架かる漢江人道橋の爆破命令を出

システムは現場に届かず、約4000名の市民が渡っている状況で爆破されました。犠牲者は800人あまりと言われますが、この爆破の責任は現場指揮官一人の処刑にとどまったのです。

前線の韓国軍は背後の橋が爆破されたことを知ると総崩れとなり、また漢江人道橋に隣接する漢江鉄橋の爆破は不十分であったため、ソウル市は北朝鮮軍の侵攻をうけることになったと言われます。

スパイ交換に利用された橋

ドイツ・ベルリン市の郊外、ポツダム市との境界ハーフェル川に架かるグリーンニッケ橋はスパイの橋と呼ばれる橋です。この橋は1907年に建設され、爆破を経て1947年再建されたのです

が、東西冷戦の時代に当時の東ドイツと西ドイツの境界に位置したことからスパイ(工作員)の交

換の場として何度も利用

されました。しかし、この爆破中止命令は指揮

士が語る戦争を経験した橋

診断士が語る戦争を経験した橋

⑦ 翻弄される市民の橋 冷戦時代の橋

「スパイ橋」グリーンニッケ橋



有名なのが、スパイ行為をしていて撃墜されたアメリカ軍偵察機の操縦士と、同じくスパイ行為で逮捕されたKGB大佐との交換(1962年)です。当時は、橋の西側

が東ドイツ、東側が西ドイツで、互いのスパイを橋のたもとに立たせ、同時に中央へ歩かせて交換するスタイルをとっていました。

この史実はスピルバーグ監督の映画「ブリッジ・オブ・スパイ」という映画で紹介されています。この橋も、ある意味戦争に巻き込まれた橋と言える

のではないのでしょうか。

この爆破中止命令は指揮

士が語る戦争を経験した橋

が、東西冷戦の時代に当時の東ドイツと西ドイツの境界に位置したことからスパイ(工作員)の交

換の場として何度も利用

されました。しかし、この爆破中止命令は指揮